

令和7年度の全国学力・学習状況調査における上中学校の調査結果

今年度は、4月 17日(木)に「全国学力・学習状況調査」を実施しました。教科に関する内容については今年度も結果の正答率だけでなく、無回答率にも着目して分析しました。学習状況については今年度の市内・奈良県・全国の中学校の数値と比較しながら、本校の今年度の傾向を考察しました。

教科に関する調査結果の概要

国語・理科の調査結果について各領域の正答率の傾向は奈良県および全国と同様でした。数学については、正答率の傾向が奈良県及び全国が正答数分布の変化が少ないのに対して、本校の正答数の分布は、正答数の多い方に寄った山形でした。平均正答率は、生駒市・奈良県及び全国をすべて上回っています。アンケートの回答では、「授業で学習したことは将来社会に出たときに役に立つと思いますか」の質問で国語・数学共に、役に立つと、とらえている生徒は奈良県及び全国より少ない割合でした。また、数学より国語の方が役に立つと、とらえている生徒が多いことが分かりました。調査結果の無回答率に着目してみると、国語では、1.1%を超える設問は 14 問中 4 問あり、3.4%、14.6%、24.3%、10.2%でした。数学では 15 問中3つの設問に対して無回答率が 10%を超えていました。国語・数学共に解答全体では無回答率は奈良県及び全国よりも低く、最後まで取り組んでいることが分かります。

国語について

変換した漢字として適切なものを選択する問題で平均正答率が唯一奈良県及び全国よりも低い結果でした。知識及び技能分野の文脈に即して漢字を正しく使うことができるかどうかをみる設問であり、言葉の特徴や使い方に関する基礎的な学習が必要であると考えます。

また、思考・判断・表現に関する問題で、記述式で回答する設問では、正答率が低く、且つ無回答率が高い状況でした。これらは文書の構成や展開について、根拠を明確にして考えることができるかをみる問題であり、本校でも奈良県及び全国同様、これらの問題に課題があることが分かります。

これらの課題への取組としては、読書活動の充実や資料を用いて、自分の考えをわかりやすく伝えるように表現し、文書にして整える授業に取り込んでいく必要があると考えます。

数学について

1 から 9 までの数の中から素数を全て選ぶ問題で平均正答率が唯一全国よりも低い結果でした。知識・技能での素数の意味を理解しているかどうかをみる設問であり、基礎的な学習の定着が必要であると考えます。

国語と同様に、思考・判断・表現に関する問題で且つ記述式で回答する設問では、正答率が低く、且つ無回答率が高い状況でした。特に、物事を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる問題であり、本校でも奈良県及び全国同様、これらの問題に課題があることが分かります。

「数学の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えていますか」の質問に「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」と回答した生徒は 60.6%で少し低い割合であることから、数学の授業からは実生活に関連づけて考えることはあまりなく、数学の問題を解きこなすといった状況

であるように思います。

普段の生活に活用できる知識や技能を習得させること、またこれからの社会においては様々な情報の中で必要な情報を活用しデータを読み取る力をつけることが重要になってくると考えています。

生活について

基本的な生活習慣

今年度の本校3年生は、毎日同じくらいの時刻に起きている生徒は89.7%で、毎日同じくらいの時刻に寝ている生徒は77.8%でした。95.1%の生徒は、毎日朝食を食べており、生活習慣は定着していると考えられます。しかし、睡眠時間等については、心配なところもあります。

行動や考え方について

●自己肯定感

「自分には、よいところがあると思いますか」の質問に「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した生徒は、88.7%で、「当てはまらない」と答えた生徒は1.0%、「どちらかといえば当てはまらない」と答えた生徒を加えると10.4%います。昨年度よりかなり向上していますが、学校として引き続き自分の良さを認められる取り組みを続けていくことが必要だと考えます。

「将来の夢や目標を持っていますか」の質問に「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した生徒は、昨年度より向上しているものの奈良県及び全国より低く、63.0%でした。

「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」の質問に「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した生徒は、昨年度より向上しているものの奈良県及び全国より低く、69.9%で奈良県に近い結果ですがまだ低い傾向にあります。

生徒にとって心の支えになれるように、普段の生活を大切に、傾聴を心掛けて生徒たちと接する必要があると考えます。

●人権意識

「人が困っているときは、進んで助けていますか」の質問に「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した生徒は93.1%、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の質問に「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した生徒は96.0%でした。しかし今もいじめ事案はなくなっているわけではありません。引き続き「いじめを許さない」強い姿勢を持ち、取り組んでいきたいと考えます。「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の質問に「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した生徒は昨年度を上回り97.5%でした。これは社会を支えていくことへの意識の表れとして頼もしいと感じています。

●学校生活や普段の生活について

「学校に行くのは楽しいと思いますか」の質問に「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した生徒は昨年度を上回り87.7%でした。「友達関係に満足していますか」の質問に「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した生徒は90.6%、「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか」の質問には「よくある」「ときどきある」と答えた生徒は93.1%いました。この

ことから学校生活や家庭生活が充実していることがうかがえる反面、否定的な回答をした生徒への思いに寄り添った対応も必要であると考えます。

「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」の質問に「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した生徒は昨年度を上回り 80.8%でした。他者の意見を聞いて自分の考えをまとめることや述べることは大切なことです。今後もこの力が向上する取組を考え、進めていきたいと考えます。

「新聞を読んでいますか」の質問には「ほとんど、または、全く読まない」と回答した生徒は、83.7%でした。現在新聞のデジタル化や新聞購読のない家庭の増加や、ネットで様々な情報がすぐに流れることが原因とも考えられますが、新聞から得られる考え方や社会情勢を知るためにも新聞を読んで欲しいと思います。図書室では新聞を閲覧できるようになっていますので利用してもらえたらと考えます。

「読書は好きですか」の質問に「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した生徒は 60.1%で全国の割合より少し低い結果でした。

学習について

●学習時間

学習時間は平日では 2 時間以上が 65.5%、休みの日は 2 時間以上が 58.6%と、奈良県及び全国より 20%～30%の差があり、平日・休日ともに学習に対して一生懸命取り組んでいる様子が見えます。

一方で、学習に対して苦手意識を持つ生徒や取り組み方がわからない生徒などに対しての支援については、昨年同様、学校サポーターの協力を得ながら放課後学習を活用し、支援の場を広げていきたいと考えます。

●ICT活用について

本校で、3 年生が「1・2 年生の時に受けた授業で、PC・タブレットなどの ICT 機器をどの程度使用しましたか」の質問に「ほぼ毎日」と回答した生徒は 44.3%、「週 3 回以上」と回答した生徒は 35.0%でした。今回の結果から使用状況については、週に 3 回程度であったことが推測できますが、ICT 活用についてどのように感じているかを問う質問が多くありました。「とてもそう思う」「そう思う」と答えた生徒の割合を合わせてみると以下の結果でした。

「自分が PC・タブレットなどの ICT 機器で文書を作成することができますか」 91.1%

「自分がインターネットを使って情報を収集することができますか」 91.2%

「自分が PC・タブレットなどの ICT 機器を使って情報を整理することができますか」 74.3%

「自分が PC・タブレットなどの ICT 機器を使って学校のプレゼンテーションを作成することができますか」 85.3%

このことから、8 割の生徒は、学習での ICT を活用できていることがわかります。学習での ICT の活用が年々、浸透してきた表れであると思っています。

●学習活動について

これまでの授業(1, 2 年生で受けてきた授業)で、「自分の考えを発表する機会では自分の考えがう

まく伝わるよう資料や文章、話の組み立てを工夫して発表していましたか」の質問に肯定的な回答をした生徒は奈良県及び全国を大きく上回り 76.4%でしたが、「課題の解決に向けて自分で考え、自分で取り組んでいましたか」「各教科などで学んだことを活かしながら自分の考えをまとめる活動を行っていましたか」「自分にあった考え方、教材、学習時間などになっていましたか」の質問に肯定的な回答をした生徒は全国を下回った結果となりました。

総合的な学習では課題を設定して調べて発表すること、学級活動では互いに話し合い、それらを活かして自分がすべきことに取り組むこと、道德の時間では学級やグループ活動を通して自分の考えを深めること、それらについては毎年少しずつではありますができる割合が高くなってきています。

以上のことから、課題解決に取り組む学習活動をいかに取り入れていくか、また教科横断的な学びや授業での ICT 活用について、本校の課題として捉え見直していきたいと考えます。

地域とのつながりについて

●地域貢献について

「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」の質問に「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した生徒は昨年度を上回り 77.3%でした。地域の方とも協力しながら積極的に参加できる機会、貢献できるような機会の創出に努めます。